

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 19 日現在

機関番号：23903

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24320068

研究課題名(和文)ポストエスニック時代の文学におけるオムニフォンの意義

研究課題名(英文)significance of omuniphone in literature in the postethnic era

研究代表者

土屋 勝彦(Tsuchiya, Masahiko)

名古屋市立大学・人間文化研究科・教授

研究者番号：90135278

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,800,000円

研究成果の概要(和文)：越境、移民、植民、離散、強制移住等によって母語を喪失ないし内化し、居住国の言語による文学創造に向かった越境的作家たちの諸作品に、多層的多重的な文学ディスクールのあり方を探り、ポストコロニアル文学理論やポストモダン文学理論といった歴史的視点を越えて、空間的な同時性をとらえる「群島の思考」から再検討し、またそこに相互反響する多言語的な動的構造を再確認し、世界文学への展望を開くことができた。

研究成果の概要(英文)：There are many writers throughout the contemporary world who have lost their mother tongue through moving, immigration, colonization, diaspora or through forced relocation, and therefore adopted the language of their country of residence for their literary endeavors. We tried to elucidate complexity and multiple dimensions characteristic of their works, and also to analyze their works from the point of view of "archipelago-thought" in order to improve and complement the historical aspects of postcolonial literary theory and postmodern theory. We discovered multilingual dynamic structures and certain prospects relevant to the world literature.

研究分野：ドイツ語圏越境文学

 キーワード：越境文学 オムニフォン 群島の思考 マイナー文学 脱領域文学 移民文学 多言語性 エクソフォ
ン

1. 研究開始当初の背景

越境、移民、植民、離散、強制移住等によって母語を喪失ないし内化し、居住国の言語による文学創造に向かった越境的作家たちの諸作品に通底する多層的・多重的な文学ディスカールのあり方を、ポストコロニアル文学理論やポストモダン文学理論といった歴史的視点のみならず、空間的な同時性をとらえる「群島的思考」(今福龍太)から再検討することにより、そこに相互反響する「オムニフォン」(シャモアゾー)の動的構造を解明したい。さらには、国民文学を越えゆくポスト・エスニック時代の文学の特質と可能性を究明することにより、移民文学や亡命文学、プランテーション文学といった従来の概念を更新し統合しうる視座を獲得することを目的とする。

2. 研究の目的

ポスト・エスニックとは、ホリンガーが『ポストエスニック・アメリカ』において、多元主義とコスモポリタニズムに分裂したアメリカの多文化主義を越えていく試みとして提示した概念であり、民族共同体的な帰属意識を持ちながら普遍主義に向かうあり方を模索する。こうした現代の文学に多言語・多文化が響きあう言語的ポリフォニーの構造を見ることができよう。本研究グループは、「越境する文学の総合的研究」(2005 - 2007年度)と「世界文学における混成的表現形式の研究」(2008 - 2010年度)という二つの科研費プロジェクトを継続的かつ精力的に推進してきた。後者の共同研究においては、本グループ主催で「世界の移民、亡命文学の現況と可能性」(2008年12月開催)および「アイデンティティ、移住、越境」(2009年11月開催)という二つのシンポジウムを行い、いわゆる「移民・亡命文学」が「世界文学」へと展開していく諸相を討議した。まず前者のシンポジウムでは、11名の文学研究者が発表し共同討議した。まず現代フランス文学では、たんなる

「移民文学」という範疇を超えたクレオール言語文化が、ポストモダン文学やポストコロニアル文学に深く関連する重要な位置を占めており、英語圏の文学においても、ラテンアメリカおよびカリブ海におけるクレオールの文学的想像力なくしては、文学が成立しえないほどの大きな役割を担っていることを確認した。ロシア・東欧語圏の文学でも、「少数者の文学」がポストモダン文学の一翼を担っている現状が明らかとなり、ドイツ語圏や日本語圏においても、「他者性」を課題とする作家たちの営為が現代文学の一翼を担っている状況を認識した。諸報告が示すとおり、ナショナルな共同体としての「語圏」とそこで生きる文学者の創造する「語圏」とは必ずしも重ならず、前者が多言語状況を支配・抑圧する機制として働くのに対して、後者はナショナルな言語文化に対する逃走、反抗、逸脱、改変、更新として機能している。そのとき作家の意識は、各語圏を越えたポリフォニックな「普遍文学」ないし「世界文学」に向かう。そこでは「移民文学」というエスニックな言語文化を越え出るインターカルチュラルな経験と表現が生起している。こうした「ポスト・エスニック時代の文学」の可能性と方向性を考察することは、現代文学を考える上で非常に重要である。以上二つのシンポジウムをそれぞれ研究成果報告書としてまとめたうえ、それらを踏まえて、本研究グループによる論集『越境する文学』(水声社)を刊行し、さらにその続編として『反響する文学』(風媒社)をも上梓した。いずれも越境的作家たちの営為を多層的・多重的な文学ディスカールとして考察したものである。異郷的な視線はときに内部

にあるナショナルな言語構造と衝突し、変質してそれを駆逐する。そのとき新たな創造的表現が現出する。これは移民作家のみならず、優れた作家たちが持つ本能的な言語革新のプロセスであるが、移民・亡命作家の場合には、「他者性」の強度と言語不信ないし言語懐疑の帕特スによって、より先鋭化された新たな表現性を獲得する可能性が高い。

こうした混成的表現と他者の知覚・認識がもたらす新たな文学的創造力を、多和田の主唱するエクソフォニーの概念に照らして考察する。すなわち、母語の外に出て多言語の響きに身を任せ、一つの言語のうちにも多言語的位相を見出し、一元的な意味性から離脱し多元的な輻輳する意味作用に向かうというこのダイナミズムから文学を読み直すこと。またオムニフォンという「あらゆる言葉が同時に響きわたる言語空間で生きる決意」であり、「理解できない言葉の不透明をうけいれ、それに耐えつつ、それを尊重し、その来歴を想像し、新たな『列島』を構成しうる可能性を探ろうとする」(管啓次郎)視点に立ってテキストを解読すること。このような読解によって、移民・亡命文学やポストコロニアル文学から、さまざまの文化が反響し合うポスト・エスニック時代の「世界文学」の方向性を探究したい。また正史たる文学史を支えてきた大陸的な近代的歴史と時間認識を、多層的な時間・空間・言語が交錯し、相互交通し、響きあう世界たる群島的な思考(アーキペラゴ)(今福龍太)から見直したい。先行研究として、『クレオール主義』群島 - 世界論(今福龍太)『亡命文学論』『ユートピア文学論』(沼野充義)『オムニフォン』(管啓次郎)『エクソフォニー』(多和田葉子)『エクストラテリトリアル』(西成彦)『文化アイデンティティの行方』(恒川邦夫ほか)『ポストコロニアルの文学』(アッシュクロフトら)『関係の詩学』(グリッサン)『越境する文学』(土屋勝彦編)『反響する文学』(土屋勝彦編)『Boder Matters』(J.D. Saldivar)などがあり、本研究はそれらの継続的発展を図るものである。

3. 研究の方法

移民・亡命作家たちや複数言語作家たち、あるいはディアスポラ作家たちの作品に見られる融合的・混成的表現形

式の特質とオムニフォニックな構造の考察、さらにその世界文学における位置づけと可能性の追求、また時間系列で捉えられてきた歴史的思考を「列島の空間思考」に変換する試行により、これまで個々に分散していた文学・文化現象における新たな連関性、つまりインターカルチュラルな側面を共同作業として発見し考察したい。そのため各研究担当者は、今後も緊密な連携の下に共同研究を行っていく。まずは資料収集・整理を継続しつつ、グループ間のネットワークを利用して、各種のシンポジウム、共同研究会を行う。また必要な国内外への出張により課題解決の具体化を図っていく。

まず、研究代表者の土屋はドイツ語圏の東欧系移民作家を中心に分析する。田中はフォークナー研究を中心にアメリカ合衆国の移民作家作品の特質について考察する。沼野はロシア亡命作家作品を中心に考究する。今福は世界に広がる様々な越境文学を「群島世界論」から新たに解読し分析する。管はフランス語圏のカリブ海クレオール作家の作品と英語圏南米クレオール作家の作品を「オムニフォン」の観点から解釈する。谷口は、日独作家である多和田葉子や欧米出身の日本語作家作品を考察する。山本は、ハンガリー移民作家作品と移民を取り巻く歴史的状況の分析を行う。それぞれの移民・亡命・放浪作家たちに共通する諸問題として、離散と融合の歴史的文化的実相、言語文化的状況の差異と共通性、各国言語の規範性と逸脱、国民文学とマイナー文学、マルチカルチャーとインターカルチャー、ナショナリズムとポストコロニアリズムといった問題系が考えられる。各研究者は、それぞれの調査と研究の結果を持ち寄り、定期的に合同研究会を開催し、以上の諸観点からテーマを導出しながら、世界文学におけるオムニフォニックな特質とその可能性、さらには群島的な反歴史観との関係について共同研究する。具体的には、土屋はドイツ語圏作家であるヴェルトリプやポドロツィク、モーラなど東欧系の作家たちの作品分析を行い、それぞれの「ドイツ国民言語」への対決姿勢について検討し、どのような社会文化的背景を有しているのかを明らかにする。沼野は、プロツキーやリモノフ、アクショーフ、ナボコフといった亡命作家たちの言語的越境の様相を探求し、どのような社会歴史的問題と関わっているのかを究明する。田中は、フォークナー研究を中心としながら、アメリカ合衆国のマイノリティ文学作家たちにも焦点を当てて、離散と統合の

横断的エクリチュールのあり方を考察する。今福は、各国民文学の集積としての世界文学という従来の概念を超える考察を、広く「群島の思考」という新たな文化人類学的方法論により展開していく。管はグリッサンというカリブ海文学の第一人者を中心として、ソラル、マバンクーら越境作家たちの流動するエクリチュールの諸相を分析し、「オムニフォン」に集約される文学的想像力を解明する。谷口は、日独作家たる多和田葉子をはじめ、リービ英雄、アーサー・ピナードなどの欧米系日本語作家のエクリチュールに内在する諸問題を析出し、その時代的社会的背景を明らかにする。山本は、ハンガリーの移民作家アゴタ・クリストフを中心として、東欧移民たちの歴史的文化的諸問題を検討し、その自己表出の特質を究明する。これらの研究から、世界各地に見られる脱国民文学の潮流、国民言語文化からの逸脱と革新、脱領域性文学の再評価、正統的な文学史の改編、マルチカルチャリズムの実相、ポストコロニアリズム文化の再生、マイナー文学ないし脱領域性文学の力動性と活性化、ポスト・エスニック文学の可能性などの現象が確認されるであろう。その基点は、文学言語表現自体の流動性であり、可動性と融合性を備えた「移動するエクリチュール」である。具体的な作品研究の下に言語表現の衝突と変成を分析し、流動するディアスポラ詩学の解明を試み、「越境する文学」から「ポスト・エスニック時代の文学」への展望を開きたい。

4. 研究成果

移民文学や亡命文学、あるいはポストコロニアル文学など、放浪と離散、異端と異郷、疎外と差別、抑圧と孤立などを経験した非定住のコスモポリタン作家たちの諸作品を研究対象とする。英語圏、フランス語圏、ドイツ語圏、ロシア・東欧語圏といった語圏あるいは各国民文学を越えて、それぞれのテクストが相互に反響しあう諸作品の、とりわけオムニフォニックな構造、あるいはエクソフォニー的なあり方を問い直し、世界における現代文学の可能性と方向性を解明した。具体的にはフランス語圏のカリブ海文学や、英語圏のチカーノ文学、ドイツ語圏の移民・亡命文学、ロシア・東欧語圏の亡命・難民文学、日本語圏の外国人文学や外地文学などを研究対象として、広く世界文学の現況を踏まえつつ、それらの文学が有する表現可能性と文化史的意義と特質を析出することによって、時間化された歴史意識を空間化する現代文

学・文化の一端を解明した。現代世界における諸文化の出会い、干渉、衝突、離反、融合の様相を視野に入れながら、具体的な諸作家および諸作品に即して、それらに通底する言語的特質とインターカルチュラリティとポスト・エスニック文学の諸相が明らかとなった。方法論的にはポストコロニアル文学理論やポストモダン文学理論を参考にしつつ、大陸的な時間的歴史認識を空間化する「列島」や「群島」の思考によって、従来の文学理論を越えうる学際的な視座を獲得した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 43 件)

2014 年度

Masahiko Tsuchiya Fliegende Identitäten, Interkulturalität, Übersetzung und Japan-Motive 人間文化研究 21 61-68 はじめ 4 編

Takako Tanaka To Go Beyond Communal Narrative Constructs Review of International American Studies 93-101

沼野充義 ナボコフと「ソ連」文学 Krug 7, 42-51 はじめ 2 編

今福龍太 韻律としての抵抗 すばる 36(6) 236-253 はじめ 8 編

Yamamoto, Akivo Forced resettlements of residents and population exchanges in Baranya County, Hungary, after WWII Mediterranean Balkan Forum Vol.7, NO.1 9-23

2013 年度 :

Masahiko Tsuchiya Interview mit Judith Brandner – Transnationale Literatur 人間文化研究 20 号 197-204 はじめ 2 編

田中敬子 『切手ほどの土地』中上健次とフォークナー フォークナー15 巻 91-105

沼野充義 亡命詩人、娼婦たち、それともナボコフ れにくさ 5-1 はじめ 2 編

今福龍太 : カオスの海の対位法 すばる 35(4) 272-289 2013 年 はじめ 7 編

山本明代 : 近代社会のダイナミズム : 移民 大津留厚ほか編 『ハプスブルク史研究入門』 168-173 2013 年 はじめ 3 編

2012 年度 :

Masahiko Tsuchiya: Anmerkungen zum Symposium „Interkulturelle Literatur“ in Japan 人間文化研究17巻 183-194 はじめ 3 編

Takako Tanaka: The Form of Remembrance in Faulkner's Late Years: Requiem for a Nun 人間文化研究 18 巻 135-49

Mitsuyoshi Numano: Харуки против

Карамазовых : Влияние «Великой русской литературы» на современную японскую литературу
Velbond 1号 170-189 はじめ3編
今福龍太 トウサンの島への帰還 すばる
34(5)、260-277 はじめ5編
〔学会発表〕(計 30 件)

2014 年度

Masahiko Tsuchiya Japan-Erfahrung bei zeitgenoessischen transnatioalen Autoren Workshop FREMDES AUGEN, EIGENES SEHEN, EIGENES AUGEN, FREMDES SEHEN ウィーン大学アジア研究センター 2014 年 6 月 16 日はじめ3回

Mitsuyoshi Numano Russian Literature in Japan 2. International Conference on „Methods of teaching oriental Languages 2014 年 5 月 14 日 Keijiro Suga Strangeography, ets. The University of Oregon 2014 年 5 月 16 日 はじめ4回

谷口幸代 大場みな子原爆・原発表象 日本近代文学会秋季大会 2014 年 10 月 19 日 広島大学
山本明代 アメリカ合衆国の『記念言説』と北米系移民の自己形成 アメリカ史学会修士論文報告会 2014 年 4 月 12 日 垂細垂大学

2013 年度

土屋勝彦 ドイツ語圏移住文学における言語革新の可能性と限界 日本比較文学会第 75 回全国大会 名古屋大学 2013 年 6 月 15 日はじめ2回

Keijiro Suga Glissant with Nakagami: Faulkners Legacies American Comparative Literature Association 2014 年 3 月 23 日 New York

山本明代: コメント 日本アメリカ史学会シンポジウム「移民の国アメリカ合衆国における非自発的移動」 2013 年 9 月 24 日 立命館大学

2012 年度:

土屋勝彦: 多和田葉子におけるドイツ経験と言語変容 日本比較文学会中部大会 2012 年 5 月 12 日 名古屋大学全学教育棟北館 4 階 406 号室 はじめ2回

田中敬子 後期フォークナーの記憶の形 『尼僧への鎮魂歌』 中部アメリカ文学会 2012 年 11 月 17 日 中京大学

Mitsuyoshi Numano: Film Adaptations of Stanislaw Lem's Solaris, 2d Symposium on Comparative Literature: Reform, Reuse, and Recycle はじめ7回

菅啓次郎 Werner Herzog and the Animal シンポジウム「写真の誘惑、視線の行方」2012 年 5 月 13 日 国立国際美術館ははじめ4回

山本明代 歴史から学ぶ共生を阻むメカニズム 第二次世界大戦後ハンガリーにおける強制移住と住民交換を考える 名古屋歴史科学研究会・歴史学入門講座 2012 年 5 月 12 日 愛知県青年会館ははじめ4回

〔図書〕(計 22 件)

2014 年度:

土屋勝彦(編集) シンポジウム「日本文学における越境の諸相」 科研報告書 2015 年 2 月 54 頁

土屋勝彦(編集) 『フロイトの彼岸 精神分析、文学、思想』 日本独文学会研究叢書 101 号 80 頁

Takako Tanaka William Faulkner and Japan in William Faulkner in Context 297-287

Cambridge UP 2014

沼野充義 『それでも世界は文学でできている』 光文社 291 頁

沼野充義 秋山・野崎編 『人文知 2 死者との対話』 227 頁 2014 年

今福龍太 『ジェロニモたちの方舟』 岩波書店 288 頁 2015 年 2 月

今福龍太『書物変身譚』新潮社 2014 年 6 月 288 頁

菅啓次郎 『ハワイ、蘭嶼』 左右社 218 頁 2014 年

谷口幸代ほか 『坊っちゃん』 事典 勉誠出版 328 頁 2014 年

山本明代訳、ノーマン・M・ナイマーク 『民族浄化のヨーロッパ史』 刀水書房 371 頁 2014 年

2013 年度

土屋勝彦: 国際シンポジウム「文学における間文化性 地域的、国民的、大陸的アイデンティティの諸相」 報告集 科研費報告書 72 頁

菅啓次郎『ストレンジオグラフィ』(左右社、2013 年、全 203 頁)

菅啓次郎『時制論』(左右社、2013 年、全 99 頁)

沼野充義 『やっぱり世界は文学でできている: 対話で学ぶ 世界文学 連続講義 2』 光文社、2013 年 364 頁

谷口幸代ほか バイリンガルな日本語 2013 年 三元社 443 頁

2012 年度

土屋勝彦: ユーリウス・H・シェプス(土屋勝彦ほか共訳: ユダヤ小百科 水声社 1232 頁)

土屋勝彦: シンポジウム「世界文学におけるオムニフォンの諸相」 報告記録集、科研費報告書、全 111 頁、2013 年

Masahiko Tsuchiya Transkulturalitaet -

Identitaeten im neuem Licht (Hrsg. von Maeda)

2012年 928頁

谷口幸代ほか神田由美子・高橋龍夫編 『渡航する作家たち』 翰林書房 2012年 223頁

沼野充義(塩川伸明・小松久男と共編著) 『ユーラシア世界 ディアスポラ論』 2012年 259+6頁

沼野充義『世界文学から/世界文学へ 文芸時評の塊 1993-2011』 2012年 506+xvi頁

沼野充義 『100分 de 名著 チェーホフ かもめ』 NHK出版 125頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

<http://doitsubunka.zouri.jp/Germany.htm>

<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/~slav/04event/index.html>

<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/genbun/>

<http://monpaysnatal.blogspot.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

土屋 勝彦 (TSUCHIYA MASAHIKO)

名古屋市立大学・大学院人間文化研究科・教授

研究者番号: 90135278

(2) 研究分担者

田中 敬子 (TANAKA TAKAKO)

名古屋市立大学・大学院人間文化研究科・教授

研究者番号: 70197440

沼野 充義 (NUMANO MITSUYOSHI)

東京大学・大学院人文社会系研究科・教授

研究者番号: 40180690

今福 龍太 (IMAFUKU RYUTA)

東京外国語大学・大学院人文社会系研究科・教授

研究者番号: 10203324

菅 啓次郎 (SUGA KEIJIRO)

明治大学・大学院理工学研究科・教授

研究者番号: 00328965

谷口 幸代 (TANIGUCHI SACHIYO)

お茶の水大学・人間文化創成科学研究科・

准教授

研究者番号: 50326162

山本 明代 (YAMAMOTO AKIYO)

名古屋市立大学・大学院人間文化研究科・

教授

研究者番号: 70363950